「自立循環型住宅への設計ガイドライン」による省エネルギー効果の評価
応募用紙 B　採用した要素技術のチェックシート（蒸暑地　Ⅴ地域）

応募用紙 B は、自立循環型住宅の設計のため採用した要素技術の省エネルギー効果を確認するためのチェックシートです。各要素技術の利用手法を該当するチェックシートに記入した上、エネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

要素技術		チェックシート
自然エネルギー活用技術	1)　自然風の利用	p2-5
	2)　昼光利用	p6-7
	3)　太陽光発電	p8
	4)　日射熱の利用	p9-13
	5)　太陽熱給湯	p14-15
建物外皮の熱遮断技術	6)　断熱外皮計画	p16
	7)　日射遮蔽手法	p17-19
省エネルギー設備技術	8)　暖冷房設備計画	p20-27
	9)　換気設備計画	p28-29
	10) 給湯設備計画	p30-31
	11) 照明設備計画	p32-33
	12) 高効率家電機器の導入	p34-35
	13) 水と生ごみの処理と効率的利用	p36

自然風の利用　チェックシート

自然風を利用するための工夫をしました。

□　YES　→　「自然風の利用　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「昼光利用　チェックシート」へ

※　以下の手順に従って、採用した自然風の利用技術のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　ガイドラインに従って、下記の立地条件を選択してください。

□　立地１：都市型の立地（区域建蔽率が 20%超）

□　立地２：郊外型の立地（区域建蔽率が 20%以下）

2.　外部風速を確認してください。

建設地における外部風速を選択してください。外部風速は地上 6.5m 位置の終日の平均風速値で、Web 上に掲載している気象データに関する情報(蒸暑地版ガイドライン p.044 コラム参照)を基に選択することを基本とします。

外部風速は

□　1m/s 以下　　□　1～2m/s　　□　2m/s 以上

3.　自然風利用の手法 1～3 に関連する下記の項目を確認してください。

以下の手順に従って、確認してください。

(ア) 評価する主要な居室（冷房エネルギーを消費する居室）を平面図上にわかるように印をつけてください。評価する主要な居室は、リビング・ダイニング用途の他に、子供室用途、寝室用途の順で 3 室まで選び、p.64～65 の室別の評価を行ってください。

(イ) ガイドライン p50 の図 1 を参照し、上記(ア)で選んだ主要な居室の通風経路を平面図上に記載し、「通風経路①」等と名前を付けてください。

(ウ) 評価法 A と評価法 B のどちらで評価するかをお選びください。

・評価法 A : 開口面積比(対象居室の床面積に対する開口面積の比率)で簡便に評価します(p.50 表 3、p58 表 6 による評価になります)

→(エ)をご確認ください。

・評価法 B：p.51 コラム記載の合成有効開口面積を算定する方法によります。

→(オ)をご確認ください。

(エ) [評価法 A]による評価を行います。

主要な居室ならびに通風経路について、以下の項目を確認し、下記の評価表に記入し、評価を実施してください。チェックボックス(□)がある場合は、該当する場合にチェックを入れてください。

・通風経路①～③で評価する居室の名前(例：リビングダイニング、寝室等)
・通風経路①～③で評価する居室の床面積[m^2]
・通風経路①～③上の室内開口部の有無(p50 図 1 参照)
→「無」の場合は、以下の「室内開口部」について記入の必要はありません。
・通風経路①～③上の各開口部での「高窓」の利用(p58～59 手法 3 参照)
・通風経路①～③上の各開口部が「風上側」位置にあるかの確認(p57 手法 2 参照、この評価は立地 2 (郊外型の立地)に限ります)。
・通風経路①～③上の各開口部の面積[m^2]
・開口面積の床面積に対する比を記入し、各通風経路(対象居室)で手法 1～3 を満たすかどうかを、p.50～p.59 を参照して判定してください。
・p.48 の表 2 を用い、立地、外部風速、手法の組合せから得られる換気回数を確認してください。

通風経路		通風経路①			通風経路②			通風経路③		
居室の名前										
居室の床面積[㎡]										
室内開口部あり		□			□			□		
		開口部1	室内開口部	開口部2	開口部1	室内開口部	開口部2	開口部1	室内開口部	開口部2
高窓の利用		□	－	□	□	－	□	□	－	□
風上側に位置する		□	－	□	□	－	□	□	－	□
開口面積[㎡]										
開口面積の床面積に対する割合										
みたす手法	手法 1a	□			□			□		
	手法 1b	□			□			□		
	手法 2	□			□			□		
	手法 3a	□			□			□		
	手法 3b	□			□			□		
換気回数[回/h]										

以上の記入が終わりましたら、4.をご確認ください。

(オ) [評価法 B]による評価を行います。

主要な居室ならびに通風経路について、以下の項目を確認し、下記の評価表に記入し、評価を実施してください。チェックボックス(□)がある場合は、該当する場合にチェックを入れてください。

・通風経路①～③で評価する居室の名前(例：リビングダイニング、寝室等)
・通風経路①～③で評価する居室の床面積[m^2]
・通風経路①～③上の室内開口部の有無(p50 図 1 参照)
→「無」の場合は、以下の「室内開口部」について記入の必要はありません。
・通風経路①～③上の各開口部での「高窓」の利用(p58～59 手法 3 参照)
・通風経路①～③上の各開口部が「風上側」位置にあるかの確認(p57 手法 2 参照、この評価は立地 2 (郊外型の立地)に限ります)。
・p.51 コラムを参照して、通風経路①～③上の各開口部の窓のタイプ(引違窓、すべり出し窓など)、幅[m]、高さ[m]、採用した流量係数、有効開口面積[m^2]、合成された有効開口面積[m^2]を記入してください。
・合成有効開口面積の床面積に対する比 i を記入し、各通風経路(対象居室)で手法 1～3 の要件を満たすかどうかを、p.51 コラムおよび p.50～p.59 を参照して判定してください。
・p.48 の表 2 を用い、立地、外部風速、手法の組合せから得られる換気回数を確認してください。

通風経路	通風経路①			通風経路②			通風経路③		
居室の名前									
居室の床面積[㎡]									
室内開口部あり	□			□			□		
	開口部1	室内開口部	開口部2	開口部1	室内開口部	開口部2	開口部1	室内開口部	開口部2
高窓の利用	□	－	□	□	－	□	□	－	□
風上側に位置する	□	－	□	□	－	□	□	－	□
開口の幅[m]									
開口の高さ[m]									
流量係数									
有効開口面積[㎡]									
合成有効開口面積[㎡]									
合成有効開口面積の床面積に対する比 i									

みたす手法	手法 1a	□（i≧0.01）	□（i≧0.01）	□（i≧0.01）
	手法 1b	□（i≧0.02）	□（i≧0.02）	□（i≧0.02）
	手法 2	□（風上側）	□（風上側）	□（風上側）
	手法 3a	□（高窓, i≧0.006）	□（i≧0.006）	□（高窓, i≧0.006）
	手法 3b	□（高窓, i≧0.012）	□（i≧0.012）	□（高窓, i≧0.012）
換気回数[回/h]				

以上の記入が終わりましたら、4.をご確認ください。

4. 自然風の利用を採用した場合の冷房エネルギーの消費率をご確認ください。

各対象居室で得られる換気回数から住宅全体のエネルギー消費率を算定します。一つの居室(通風経路)を対象に評価している場合は、p.48 表 1 をもとにエネルギー消費率(1 から冷房エネルギー削減率を引いたもの)を確認してください。また、ここまで複数の居室(複数の通風経路)で評価している場合は、主要な居室としてリビング・ダイニングのみで評価する方法(リビング・ダイニングの換気回数をもとに p.48 の表 1 による方法)と、p.64～65 の室別の計算方法により算定する方法がありますので、お選びください。

エネルギー消費率： ＿＿＿＿＿＿＿＿	
算定方法：	□p. 48 表 1 をもとに算定(←↓どちらかを選んでください) □p. 64～65 の室別の計算方法により算定

昼光利用　チェックシート

昼光を利用するための工夫をしました。

□　YES　→　「昼光利用　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「太陽光発電　チェックシート」へ

※　以下の手順に従って、採用した昼光利用技術のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　ガイドラインに従って、下記の立地条件を選択してください。

□　立地１：太陽光の利用が困難な過密・高層型の立地

□　立地２：太陽光の利用に工夫が必要な過密型の立地

□　立地３：太陽光の利用が容易な郊外型の立地

2.　昼光利用の手法を確認してください。

手法１　直接的な昼光利用手法

直接的な昼光利用手法を採用している場所名（図面における空間名）と採光面（側窓、頂側窓、天窓など）を記入してください。

記入例：リビング、2 面採光：南と東に側窓部が設けてある。

手法２　間接的な昼光利用手法

間接的な昼光利用手法を採用している場所名（図面における空間名）とその工夫（吹き抜け・欄間・光井戸・光庭等による導光、仕上げ面の反射、装置による導光など）、を場所ごとに記入してください。

3. 採光条件を判定してください。

□ 採光条件１： LD２面採光

□ 採光条件２： LD・老人室・子供室２面採光

□ 採光条件３： LD・老人室・子供室２面採光＋非居室全て１面採光

4. 昼光利用による照明エネルギーの消費率のレベル評価を行ってください。

レベル評価 / 採光条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
	1.0	0.97-0.98	0.95	0.9
立地１	□1 面採光（床面積×1/7）	□採光条件 3	—	—
立地２	—	□採光条件 2	□採光条件 3	—
立地３	—	□採光条件 1	□採光条件 2	□採光条件 3

記入例：立地 2、採光条件 2 の場合：

レベル評価 / 採光条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
	1.0	0.97-0.98	0.95	0.9
立地１	□1 面採光（床面積×1/7）	□採光条件 3	—	—
立地２	—	■採光条件 2	□採光条件 3	—
立地３	—	□採光条件 1	□採光条件 2	□採光条件 3

太陽光発電　チェックシート

太陽光発電を利用する。

□　YES　→　「太陽光発電　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「日射熱の利用　チェックシート」へ

1. 太陽電池の容量を記入してください。

   _____ KW

2. 太陽光発電の利用によるエネルギー消費の削減量のレベル評価を行ってください。

	削減量のレベル評価			
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
	削減なし	32.7GJ 削減	43.6GJ 削減	—
太陽電池の容量	□採用なし	□3kW 程度	□4kW 程度	—

記入例：3kW の太陽電池を採用した場合：

	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
	削減なし	32.7GJ 削減	43.6GJ 削減	—
太陽電池の容量	□採用なし	■3kW 程度	□4kW 程度	—

日射熱の利用　チェックシート

日射熱を利用するための工夫をしました。

□　YES　→　「日射熱の利用　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「太陽熱給湯　チェックシート」へ

※　以下の手順に従って、採用した日射熱利用技術のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　前提となる建物性能水準を満たすかどうか確認してください。

□　外皮の断熱水準がレベル３以上（要件は、平成 11 年省エネルギー基準を満たすこと。熱損失係数で評価する場合は 2.7W/㎡・K 以下が要件）であり、且つ集熱開口部面積が延床面積の 10%以上。

外皮の断熱水準がレベル３以上（平成 11 年省エネルギー基準）：

□　はい

□　いいえ

熱損失係数が 2.7W/m2K 以下：　　＿＿＿＿＿＿W/㎡・K

※熱損失係数で判断する場合は記入を要する

集熱開口部（方位は真南から±30°以内）の面積：

＿＿＿＿＿＿㎡　　延床面積の＿＿＿＿＿＿%を占める。

＊以下、前提条件を満たす方のみお答えください。

2.　地域の気候特性（パッシブ地域区分）をお答えください。

※パッシブ地域区分は 2009 年 4 月の改訂前の省エネ基準に準拠（ガイドライン参照）

□　い地域　：　日射量が少なく非常に寒い地域

□　ろ地域　：　日射量が少なく寒い地域

□　は地域　：　日射量が多く寒い地域

□　に地域　：　日射量が多い地域

□　ほ地域　：　日射量が多く暖かい地域

3.　立地条件（日照障害の影響）をお答えください。

※冬至における日照時間で判断。

□ 立地１　：　日照障害の影響が大きく日射熱利用が困難な立地
□ 立地２　：　日照障害の影響が少なく日射熱利用が可能な立地
□ 立地３　：　日照障害の影響がなく日射熱利用が容易な立地

4. 建物の方位（集熱面となる開口部の方位）をお答えください。

□ 方位１　：　真南±１５°
□ 方位２　：　真南±３０°（ただし方位１の範囲を除く）

5. 日射熱利用の手法を確認してください。

手法１　開口部の断熱手法（開口部断熱性の向上）

以下の手順に従って、手法１を満たすかどうかを確認してください。

（ア）　開口部の建具およびガラスの仕様を記入してください。
（例：木製サッシ＋複層（Ａ１２）ガラス）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（イ）　熱貫流率を記入してください。（開口部仕様毎の熱貫流率は蒸暑地版ガイドライン P153 の表６を参照のこと。）
熱貫流率　＿＿＿＿＿＿（W/㎡・K）

（ウ）　手法１の要件を満たすかどうか判断してください。
□　手法１の要件を満たす：開口部の熱貫流率が 2.91 W/㎡・K 以下である。

手法２　開口部からの集熱手法（集熱開口部面積の増加）

以下の手順に従って、手法２を満たすかどうかを確認してください。

（ア）　真南±３０°の方位に面する集熱面となり得る開口部の位置（記入例：リビング南側）および、開口部の面積を記入してください。

位置（複数可）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
面積（合計）：　＿＿＿＿＿＿（㎡）　延床面積の＿＿＿＿＿＿％を占める。

（イ）　手法２の要件を満たすかどうか判断してください。
□　手法２の要件を満たす:真南±３０°の方位に面する集熱面となり得る開口部面積が延床面積の２０％以上である。

手法３　蓄熱手法（蓄熱材の使用）

以下の手順に従って、手法３を満たすかどうかを確認してください。

（ア）　　蓄熱部位の材料（例：モルタル・壁土・ヒノキ等）と蓄熱部位の面積をお答えください。

材料：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

面積：＿＿＿＿＿＿（㎡）

(イ) 蒸暑地版ガイドライン p99 を参考し、蓄熱部位の熱容量を計算してください。
（熱容量＝蓄熱部位の容積×蓄熱材の容量比熱）

熱容量：＿＿＿＿＿＿（kJ/℃・㎡）

（ウ）　　手法３の要件を満たすかどうか判断してください。

□　手法 3 の要件を満たしている：170（kJ/℃・㎡）程度以上の熱容量の増加が見込まれる材料を蓄熱部位に用いる。

6.　日射熱利用を採用した場合、暖房エネルギーの消費率ご確認ください。

レベル評価 / 採光条件			エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
			レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
			1.0	0.95	0.9	0.8	0.6
ほ地域	立地 2	方位 1	□非採用	□手法 1+3	□手法 1+2	□手法 1+2+3	
		方位 2	□非採用		□手法 1+2+3		
	立地 3	方位 1	□非採用		□手法 3	□手法 1 □手法 1+2 □手法 1+3	□手法 1+2+3
		方位 2	□非採用	□手法 3	□手法 1	□手法 1+2 □手法 1+3	□手法 1+2+3
に地域	立地 2	方位 1	□非採用	□手法 1 □手法 1+3	□手法 1+2 □手法 1+2+3		
		方位 2	□非採用	□手法 1+2	□手法 1+2+3		

	立地 3	方位 1	□非採用		□手法 1	□手法 1+2 □手法 1+3	□手法 1+2+3
		方位 2	□非採用		□手法 1	□手法 1+2 □手法 1+3 □手法 1+2+3	
は地域	立地 2	方位 1	□非採用	□手法 1 □手法 1+3	□手法 1+2 □手法 1+2+3		
		方位 2	□非採用	□手法 1+2	□手法 1+2+3		
	立地 3	方位 1	□非採用		□手法 1	□手法 1+2 □手法 1+3 □手法 1+2+3	
		方位 2	□非採用		□手法 1 □手法 1+3	□手法 1+2 □手法 1+2+3	

記入例：に地域、立地 2、方位 2、手法 1，2，3 を採用した場合：

採光条件 ＼ レベル評価			エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
			レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
			1.0	0.95	0.9	0.8	0.6
ほ地域	立地 2	方位 1	□非採用	□手法 1+3	□手法 1+2	□手法 1+2+3	
		方位 2	□非採用		□手法 1+2+3		
	立地 3	方位 1	□非採用		□手法 3	□手法 1 □手法 1+2 □手法 1+3	□手法 1+2+3
		方位 2	□非採用	□手法 3	□手法 1	□手法 1+2 □手法 1+3	□手法 1+2+3
に地域	立地 2	方位 1	□非採用	□手法 1 □手法 1+3	□手法 1+2 □手法 1+2+3		
		方位 2	□非採用	□手法 1+2	■手法 1+2+3		
	立地 3	方位 1	□非採用		□手法 1	□手法 1+2 □手法 1+3	□手法 1+2+3
		方位 2	□非採用		□手法 1	□手法 1+2 □手法 1+3 □手法 1+2+3	

は地域	立地 2	方位 1	□非採用	□手法 1 □手法 1+3	□手法 1+2 □手法 1+2+3		
		方位 2	□非採用	□手法 1+2	□手法 1+2+3		
	立地 3	方位 1	□非採用		□手法 1	□手法 1+2 □手法 1+3 □手法 1+2+3	
		方位 2	□非採用		□手法 1 □手法 1+3	□手法 1+2 □手法 1+2+3	

太陽熱給湯　チェックシート

太陽熱給湯を利用する。

□　YES　→　「太陽熱給湯　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「断熱外皮計画　チェックシート」へ

※　以下の手順に従って、採用した太陽熱給湯技術のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　太陽熱給湯装置を下記から選択してください。

□　太陽熱温水器　　（集熱部と貯湯部が一体で自然循環により集熱する形式）

□　ソーラーシステム（集熱部と貯湯部の間で強制循環により集熱する形式）

2.　太陽熱給湯利用の手法を確認してください。

手法１　集熱部の面積の確保

以下の手順に従って、手法１を満たすかどうかを確認してください。

（ア）　　機器メーカーの情報（カタログ等）を確認し有効集熱面積を記入してください。

有効集熱面積：＿＿＿＿＿（㎡）

（イ）　　手法１の要件を満たすかどうか判断してください。

□　手法１ａを満たす：有効集熱面積が 3.5 ㎡未満。

□　手法１ｂを満たす：有効集熱面積が 3.5 ㎡以上 5 ㎡未満。

□　手法１ｃを満たす：有効集熱面積が 5 ㎡以上。

手法２　補助熱源との適正な接続

当てはまる手法をチェックしてください。

□　手法２a：補助熱源と接続しない。

□　手法２b：三方弁を用いて補助熱源機に接続する。

□　手法２c：ソーラー接続ユニットを用いて補助熱源機に接続する。

手法３　省エネ型の循環ポンプの採用（ソーラーシステムのみ）

□　採用している。

（特に記入不要です。）

3.　太陽熱給湯を採用した場合、給湯エネルギーの消費率ご確認ください。

	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.0	0.9	0.7	0.5	0.3
太陽熱温水器	□従来型ガス給湯機	□手法 1a+2a	□手法 1a+2c □手法 1b+2b	□手法 1b+2c	□手法 1c+2c
ソーラーシステム	□従来型ガス給湯機	（□手法 1a+2a）	□手法 1a+2c □手法 1b+2b	□手法 1b+2c+3	□手法 1c+2c+3

記入例：太陽熱温水器を設置し、手法 1a, 2c を採用した場合：

	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.0	0.9	0.7	0.5	0.3
太陽熱温水器	□従来型ガス給湯機	□手法 1a+2a	■手法 1a+2c □手法 1b+2b	□手法 1b+2c	□手法 1c+2c
ソーラーシステム	□従来型ガス給湯機	（□手法 1a+2a）	□手法 1a+2c □手法 1b+2b	□手法 1b+2c+3	□手法 1c+2c+3

断熱外皮計画　チェックシート

（回答必須）

1.　断熱レベルを下記からお選びください。

□　昭和５５年省エネルギー基準相当の断熱水準（熱損失係数 8.3W/m²K 以下）

□　平成４年省エネルギー基準相当の断熱水準（熱損失係数 4.6W/m²K 以下）

□　平成１１年省エネルギー基準と平成４年省エネルギー基準の中間相当の断熱水準（熱損失係数 3.3W/m²K 以下）

□　平成１１年省エネルギー基準相当の断熱水準（熱損失係数 2.7W/m²K 以下）

□　平成１１年省エネルギー基準を超える断熱水準（熱損失係数 2.1W/m²K 以下）

2.　断熱外皮計画による暖房エネルギーの消費率をご確認ください。

レベル / 暖房方式	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
部分間欠暖房	1.0	0.7	0.5	0.45	0.35
全館連続暖房	1.0	0.6	0.5	0.4	0.3
	□S55 年基準	□H4 年基準	□H4・11 中間	□H11 基準	□H11 超

記入例：熱損失係数が 2.7W/m²K、部分間欠暖房の場合（H11 水準）：

レベル / 暖房方式	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
部分間欠暖房	1.0	0.7	0.5	0.45	0.35
全館連続暖房	1.0	0.6	0.5	0.4	0.3
	□S55 年基準	□H4 年基準	□H4・11 中間	■H11 基準	□H11 超

日射遮蔽手法　チェックシート

日射遮蔽手法を採用する。

□　YES　→　「日射遮蔽手法　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「暖冷房設備計画　チェックシート」へ

※　以下の手順に従って、採用した日射遮蔽技術のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　主開口面の方位を選び出してください。

＊主開口面は、以下のいずれかを満足します。

a. 住宅の延床面積に対する当該方位に面する開口部面積の割合が 15%程度以上である。

b. 当該方位に面する開口部面積が、他方位に面する開口部面積の 3 倍程度を超えている。

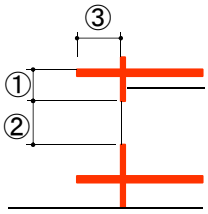
□　南

□　南東または南西

□　東または西

※主開口面の方位がいずれか近い方位を上記から選んでください。

2.　開口部のガラスの仕様及び日射遮蔽部材（内付ブラインド等）の種類を記入してください。各方位の窓について記入してください。なお、①窓庇間距離、②窓高さ、③庇の出については図を参考に求めてください。



開口部１：

方位：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ガラスの仕様：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日射遮蔽部材の仕様：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

庇の形状：①＿＿＿mm　②＿＿＿mm　③＿＿＿mm　③÷（①＋②）の値：＿＿＿＿

開口部２：

方位：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ガラスの仕様：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日射遮蔽部材の仕様：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

庇の形状：①＿＿＿mm　②＿＿＿mm　③＿＿＿mm　③÷（①＋②）の値：＿＿＿＿

開口部３：

方位：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ガラスの仕様：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日射遮蔽部材の仕様：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

庇の形状：①＿＿＿mm　②＿＿＿mm　③＿＿＿mm　③÷（①＋②）の値：＿＿＿＿

開口部 4：

方位：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ガラスの仕様：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日射遮蔽部材の仕様：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

庇の形状：①＿＿＿mm　②＿＿＿mm　③＿＿＿mm　③÷（①＋②）の値：＿＿＿＿

開口部 5：

方位：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ガラスの仕様：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日射遮蔽部材の仕様：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

庇の形状：①＿＿＿mm　②＿＿＿mm　③＿＿＿mm　③÷（①＋②）の値：＿＿＿＿

開口部 6：

方位：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ガラスの仕様：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日射遮蔽部材の仕様：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

庇の形状：①＿＿＿mm　②＿＿＿mm　③＿＿＿mm　③÷（①＋②）の値：＿＿＿＿

3. **以下の（ア）または（イ）に従って、開口部の日射侵入率を計算し、以下の表に記入してください。**

(ア) 蒸暑地版ガイドライン p192~193 の表 3 を参考して、ガラス・日射遮蔽部材・庇等の組み合わせによる日射侵入率を記入してください。

(イ) 表 3 にない組み合わせについて、p193 のコラムを参考して、日射侵入率を計算してください。（※開口部の日射侵入率＝ガラスの日射侵入率×日射遮蔽部材の遮蔽係数×庇等の遮蔽係数）

開口部	日射侵入率	方位	
1		□真北±30°	□「真北±30° 以外」
2		□真北±30°	□「真北±30° 以外」
3		□真北±30°	□「真北±30° 以外」
4		□真北±30°	□「真北±30° 以外」
5		□真北±30°	□「真北±30° 以外」
6		□真北±30°	□「真北±30° 以外」

4. 日射遮蔽手法を採用した場合、冷房エネルギーの消費率をご確認ください。

		エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
		レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
主開口部の方位	南	1.0	0.85	0.7	0.55
	南東 OR 南西	1.3	0.8	0.75	0.65
	東 OR 西	1.0	0.8	0.75	0.65
開口部の日射侵入率	真北±30°	□0.79 程度	□0.79 以下	□0.55 以下	□0.55 以下
	上記以外	□0.79 程度	□0.60 以下	□0.45 以下	□0.3 以下

記入例：主開口部が南に面し、庇あり、複層ガラス＋外付けブラインドの場合、日射侵入率が 0.13：

		エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
		レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
主開口部の方位	南	1.0	0.85	0.7	0.55
	南東 OR 南西	1.3	0.8	0.75	0.65
	東 OR 西	1.0	0.8	0.75	0.65
開口部の日射侵入率	真北±30°	□0.79 程度	□0.79 以下	□0.55 以下	□0.55 以下
	上記以外	□0.79 程度	□0.60 以下	□0.45 以下	■0.3 以下

暖冷房設備計画　チェックシート

（回答必須）

※　以下の手順に従って、暖冷房設備のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　LDK に設置した暖房方法について、下記から選択してください。

□　エアコン暖房（方式１）
　→　１－１）暖房設備計画（方式１）にお答えください。
□　ガス・石油温水暖房（方式２）
　→　１－２）暖房設備計画（方式２）にお答えください。
□　ＦＦ式（強制給排気）暖房（方式３）
　→　１－３）暖房設備計画（方式３）にお答えください。
□　ダクト式セントラル暖房（方式４）
　→　１－４）暖房設備計画（方式４）にお答えください。
□　以上のいずれにも該当しない。
　→　１－５）暖房設備計画（その他）にをお答えください。

１―１）エアコン暖房（方式１）

(1) 手法を確認してください。

手法１　高効率エアコンの採用

LDK に設置したエアコン暖房 COP（エネルギー効率）を記入してください。

暖房 COP（エネルギー効率）：＿＿＿＿＿＿＿＿

エアコンの仕様が分かる資料（カタログのコピー等）を送付してください。

手法２　適切な機器容量の設定

LDK に設置したエアコンの最大暖房能力と設置されている部屋の広さを記入してください。

最大暖房能力：＿＿＿＿ｋＷ
部屋の広さ：＿＿＿＿畳　（＿＿＿＿㎡）

蒸暑地版ガイドライン p231 の表 12 を参考し、手法 2 を採用したかどうか、確認してください。

□　手法２を採用
□　手法２を非採用

(2) エアコンで暖房を行う場合、暖房エネルギーの消費率をご確認ください。

条件＼レベル評価		エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）						
		レベル 0	レベル 1	レベル 2 -	レベル 2	レベル 3-	レベル 3	レベル 4
		1	0.95	0.90	0.85	0.80	0.75	0.70
LDK に設置するエアコンの暖房定格 COP	手法 2 を採用	—	—	□4.0 未満	□4.0 以上	□4.5 以上	□5.3 以上	□6.2 以上
	手法 2 を非採用	□4.9 未満	□4.9 以上	—	—	—	—	—

記入例：断熱水準がレベル 3（H11 基準、開口部強化）、10 畳の LDK に必要な最大暖房能力が 2.7kW（p231 表 12 参照）、最大暖房能力が 2.7kW、COP が 5. 0 のエアコンを設置した場合：

条件＼レベル評価		エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）						
		レベル 0	レベル 1	レベル 2 -	レベル 2	レベル 3-	レベル 3	レベル 4
		1	0.95	0.90	0.85	0.80	0.75	0.70
LDK に設置するエアコンの暖房定格 COP	手法 2 を採用	—	—	□4.0 未満	□4.0 以上	■4. 5 以上	□5.3 以上	□6.2 以上
	手法 2 を非採用	□4.9 未満	□4.9 以上	—	—	—	—	—

1―2）ガス・石油温水暖房（方式２）

(1) 手法を確認してください。

手法１　高効率の熱源機の採用
当てはまる熱源機の種類をチェックしてください。

□　従来型ガス給湯機
□　潜熱回収ガス給湯機
□　従来型石油給湯機
□　潜熱回収型石油給湯機

熱源機の仕様が分かる資料(カタログのコピー等)を別添として送付してください。

手法２　熱源機の送水温度の低温化

□　手法２を採用
□　手法２を非採用

手法３　床下および配管の断熱、配管長の短縮化

□　手法３を採用
□　手法３を非採用

以下、手法３を採用した方のみお答えください。(自由記入)
床下および配管に使用する断熱材と厚さ（例：グラスウールボード 32K　厚さ 60 ㎜）について記入してください。

手法４　床暖房の採用・施設率の増加

□　手法４を採用
□　手法４を非採用

以下、手法４を採用した方のみお答えください。(自由記入)
床暖房を採用する場所（例：リビング、ＬＤＫ等）を記入してください。

(2) ガス・石油温水暖房の場合、暖房エネルギーの消費率をご確認ください。

		エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
		レベル-2	レベル-3	レベル-4
		1.15	1.40	1.65
熱源	ガス	□全て採用	□非採用	—
	石油	—	□全て採用	□非採用

記入例：ガス温水暖房を設置し、省エネ手法を全て採用した場合：

		エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
		レベル-2	レベル-3	レベル-4
		1.15	1.40	1.65
熱源	ガス	■全て採用	□非採用	—
	石油	—	□全て採用	□非採用

１―３）FF 式（強制給排気式）暖房（方式３）

仕様が分かる資料（カタログのコピー等）を別添として送付してください。

暖房機器の種類を記入してください。（例：ガスＦＦ式ストーブ）

	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）
	レベル-1
	1.05
FF 式暖房	手法を特に指定しない

１―４）ダクト式セントラル暖房方式（方式４）

仕様が分かる資料（カタログのコピー等）を別添として送付してください。

(1) 手法を確認してください。

手法１　高効率セントラル暖冷房機器の採用

冷房定格効率（ＣＯＰ）：＿＿＿＿＿＿

□　手法 1 を採用。（冷房定格効率 4.0 以上）

□　手法 1 を非採用。（冷房定格効率 4.0 以下）

手法２　室別の温度調節機能付き機種の採用

□　手法２を採用

□　手法２を非採用

(2) ダクト式セントラル暖房の場合、暖房エネルギーの消費率をご確認ください。

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
レベル 0	レベル 1	レベル 2
1.0	0.8	0.55
□非採用	□手法 1	□手法 1+2

記入例：COP4、温度調節機能付きのセントラル暖房を使用する場合：

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
レベル 0	レベル 1	レベル 2
1.0	0.8	0.55
□非採用	□手法 1	■手法 1+2

１－５）その他の暖房方式

(1) 暖房設備の方法・使用する設備等を記入してください。（自由記述）

可能であれば、暖房設備の仕様が分かる（カタログのコピー等）資料を別添として送付してください。

(2) その他の暖房方式の場合、暖房エネルギーの消費率をご確認ください。

適用される機器	エネルギー消費率(標準値を 1.0 とした場合)
□電気蓄熱暖房機	1. 85
□電気ヒーター式暖房機	
□電気ヒーター式床暖房	
□温水暖房で熱源機が電気ヒーターを採用している暖房システム	

記入例：電気蓄熱暖房機を採用した場合：

適用される機器	エネルギー消費率(標準値を 1.0 とした場合)
■電気蓄熱暖房機	1.85
□電気ヒーター式暖房機	
□電気ヒーター式床暖房	
□温水暖房で熱源機が電気ヒーターを採用している暖房システム	

2. 冷房方法を下記から選択してください。

□ エアコン冷房（方式１）

→ ２－１）冷房設備計画（方式１）にお答えください。

□ ダクト式セントラル冷房方式（方式２）

→ ２－２）冷房設備計画（方式２）にお答えください。

□ 以上のいずれにも該当しない。

→ 冷房設備の方法・使用する設備等を記入してください。（自由記述）

２－１）エアコン冷房

(1) 省エネ手法の採用を確認してください。

手法１ 高効率エアコンの採用

LDK とその他の居室に使用するエアコンの冷房ＣＯＰ（エネルギー効率）を記入してください。

LDK ：_____ その他居室 ：_____

手法２ 適切な機器容量の設定

LDK とその他の居室に設置したエアコンの最大暖房能力と設置されている部屋の広さを記入してください。

① LDK：
最大暖房能力：_____kW 部屋の広さ：_____畳 （_____㎡）

② その他の居室：
最大暖房能力：_____kW 部屋の広さ：_____畳 （_____㎡）

蒸暑地版ガイドライン p231 の表 12 を参考し、手法 2 を採用したかどうか、確認してください。

① LDK：
□ 手法２を採用
□ 手法２を非採用

② その他の居室：
□ 手法２を採用
□ 手法２を非採用

手法３　扇風機・天井扇の利用

LDK とその他の居室において、手法３を採用したかどうか確認してください。

① LDK：

□　手法３を採用

□　手法３を非採用

② その他の居室：

□　手法３を採用

□　手法３を非採用

(2) 省エネルギー効果のクラスを確認してください。

蒸暑地版ガイドライン p220 を参考して、LDK とその他の居室の省エネルギー効果のクラスを確認してください。

① LDK のクラス：　＿＿＿＿＿＿＿＿

② その他の居室のクラス：　＿＿＿＿＿＿＿＿

(3) エアコンで冷房を行う場合、冷房エネルギーの消費率をご確認ください。

		エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）							
レベル評価 / クラス		レベル 0	レベル 1	レベル 2 -	レベル 2	レベル 3-	レベル 3	レベル 4-	レベル 4
		1	0.95	0.90	0.85	0.80	0.75	0.70	0.65
LDK のクラスの適用	その他居室：クラス 0	□ クラス 0	□ クラス 1	□ クラス 2	□ クラス 3	□ クラス 4	□ クラス 5	—	—
	その他居室：クラス 1	—	□ クラス 0	□ クラス 1	□ クラス 2	□ クラス 3	□ クラス 4	□ クラス 5	—
	その他居室：クラス 2	—	—	□ クラス 0	□ クラス 1	□ クラス 2	□ クラス 3	□ クラス 4	□ クラス 5

記入例：LDK に定格冷房能力が 2.7kW、COP5.0 のエアコンを設置し、その他居室に定格能力が 2.2kW、COP が 4.6 のエアコンを設置し、扇風機を使用しない場合、LDK のクラスが 4、その他居室のクラスが 2：

レベル評価 / クラス		エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）							
		レベル 0	レベル 1	レベル 2 -	レベル 2	レベル 3-	レベル 3	レベル 4-	レベル 4
		1	0.95	0.90	0.85	0.80	0.75	0.70	0.65
LDK のクラスの適用	その他居室：クラス 0	□ クラス 0	□ クラス 1	□ クラス 2	□ クラス 3	□ クラス 4	□ クラス 5	—	—
	その他居室：クラス 1	—	□ クラス 0	□ クラス 1	□ クラス 2	□ クラス 3	□ クラス 4	□ クラス 5	—
	その他居室：クラス 2	—	—	□ クラス 0	□ クラス 1	□ クラス 2	□ クラス 3	■ クラス 4	□ クラス 5

２－２）ダクト式セントラル冷房

(1) 手法を確認してください。

（1－４）ダクト式セントラル暖房方式と同様ですので、特に記入不要です。）

(2) ダクト式セントラル冷房の場合、冷房エネルギーの消費率をご確認ください。

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
レベル 0	レベル 1	レベル 2
1.0	0.75	0.60
□非採用	□手法 1	□手法 1+2

記入例：COP4、温度調節機能付きのセントラル冷房を使用する場合：

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
レベル 0	レベル 1	レベル 2
1.0	0.75	0.60
□非採用	□手法 1	■手法 1+2

換気設備計画　チェックシート

（回答必須）

※　以下の手順に従って、暖冷房設備のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　換気方式を下記から選択してください。

□　ダクト式換気システム（第一種、第二種、第三種）（方式１）

→　３－１）換気設備計画（方式１）にお答えください。

□　壁付け式換気システム（第一種、第二種、第三種）（方式２）

→　３－２）換気設備計画（方式２）にお答えください。

３－１）ダクト式換気システム（第一種、第二種、第三種）（方式１）

(1) 手法を確認してください。

□　手法１　ダクト等の圧力損失低減

（以下、採用するにチェックした方のみお答えください。）

ダクト等の圧力損失低減のための工夫（例：ダクト径を大きめ（直径 75㎜以上）のものを使用している。ダクト長さを適正化し、曲がりを極力減らす工夫をしている等）について記入してください。（自由記述）

※ダクト等の配置図を添付してください。

□　手法２　高効率機器の導入

（以下、採用するにチェックした方のみお答えください。）

換気機器の仕様が分かる資料（カタログのコピー等）を別添として送付してください。

(2) ダクト式換気システムの場合、換気エネルギーの消費率をご確認ください。

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
レベル 0	レベル 1	レベル 2
1.0	0.60	0.50
—	□手法 1	□手法 1+2

記入例：主ダクトと枝ダクトとも、直径 100mm であり、DC モータを導入した場合：

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
レベル 0	レベル 1	レベル 2
1.0	0.60	0.50
—	□手法 1	■手法 1+2

３－２）壁付け式換気システム（第一種、第二種、第三種）（方式２）

(1) 手法を確認してください。

手法１　ファンと屋外端末の組み合わせの適正化

□　いずれの屋外端末にも防虫網はついていない。

□　_____台中_____台の屋外端末に防虫網がついている。
　　壁付け換気ファンの合計消費電力_____W

※壁付け式換気ファンの機外静圧と風量との関係図（特性曲線）及び屋外端末等の使用する換気部材の圧力損失特性、及びファンの消費電力がわかる資料を添付してください。

(2) 壁付け式換気システムの場合、換気エネルギーの消費率をご確認ください。

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）	
レベル 0	レベル 1
1.0	0.80
—	□手法 1

記入例：プロペラファンと圧力損失の小さいガラリ型端末の組み合わせを採用した場合：

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）	
レベル 0	レベル 1
1.0	0.80
—	■手法 1

給湯設備計画　チェックシート

（回答必須）

※　以下の手順に従って、給湯設備のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1. 給湯器（太陽熱利用の場合は補助熱源機）を確認してください。仕様が分かる資料（カタログのコピー等）を別添として送付してください。

2. 省エネ手法の採用を確認してください。

手法２　高効率給湯機の導入

□　潜熱回収型ガス給湯機（エコジョーズ）
□　潜熱回収型石油給湯機（エコフィール）
□　自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯機（CO_2HP：エコキュート）

自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯機をチェックした方のみお答えください。

リモコンを確認し、沸上モードの設定（例：おまかせ、節約、おすすめ、たっぷり、深夜のみ　湯量中、深夜のみ　湯量多め等）を記入してください。

モードの設定（エコキュートのみ）：＿＿＿＿＿＿＿＿

手法３　給湯設備各部の省エネルギー設計・工法等の検討

給湯設備各部の省エネルギー設計・工夫等を確認してください。

□　サヤ管ヘッダー方式の採用
□　給湯配管経路の最短化と管径の最小化
□　給湯配管の保温
□　給湯器設置位置の検討
□　浴槽の保温
□　浴室の保温
□　節湯器具の採用

必要に応じて採用している節湯器具（シャワーヘッド等）や浴槽などの仕様がわかる資料（カタログのコピー等）を別添として送付してください。

3.　給湯設備計画による給湯エネルギーの消費率をご確認ください。

レベル評価 / 条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）					
	レベル-1	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6
手法 2： ①潜熱回収型ガス・石油給湯機 ②CO_2HP	□手法 2②「沸上最大モード」「深夜のみ最大モード」	□従来型給湯機 □手法 2②「深夜のみ中モード」	□手法 2① □手法 2②「沸上中モード」 □手法 3	□手法 2①+3	□手法 2②「省エネモード」	□手法 2②「省エネモード」+3

記入例：CO2HP の省エネモードで使用し、かつ給湯配管の保温などの措置を行った場合：

レベル評価 / 条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）					
	レベル-1	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6
手法 2： ①潜熱回収型ガス・石油給湯機 ②CO_2HP	□手法 2②「沸上最大モード」「深夜のみ最大モード」	□従来型給湯機 □手法 2②「深夜のみ中モード」	□手法 2① □手法 2②「沸上中モード」 □手法 3	□手法 2①+3	□手法 2②「省エネモード」	■手法 2②「省エネモード」+3

なお、電気ヒーターによる給湯機を採用した場合のエネルギー消費率の評価は以下に従ってください。

適用される機器	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）
□電気温水器（ヒーター式）	2.68

照明設備計画　チェックシート

照明設備計画による省エネ手法を採用する。

□　YES　→　「照明設備計画　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「高効率家電機器の導入　チェックシート」へ

1.　照明設備計画による省エネルギー手法を確認してください。

（以下のエネルギー手法がわかる器具の配置・種類を記した図面を別添資料として送付してください。）

□　手法１　機器による手法

住宅全体で主に採用している照明機器の光源の種類についてお答えください。

- □　電球蛍光ランプ
- □　Hf 蛍光ランプ
- □　反射型ハロゲンランプ・レフランプ
- □　LED
- □　その他、高性能な器具による工夫を記入してください。（例：高効率反射板ダウンライトの採用、光触媒膜付器具の採用など）

□　手法２　運転・制御による手法

住宅全体で主に採用している運転・制御による手法を選択してください。

- □　調光スイッチ
- □　リモコン
- □　タイマー
- □　人感センサー
- □　照度センサー

□　手法３　設計による手法

設計による工夫等（例：LDK における多灯分散照明の採用）について記入してください。（自由記述）

2.　照明設備のエネルギー消費率をご確認ください。

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
1.0	0.7	0.6	0.5
□従来型	□手法 1	□手法 1+2	□手法 1+2+3

記入例：電球蛍光ランプと人感センサーを採用した場合：

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
1.0	0.7	0.6	0. 5
□従来型	□手法 1	■手法 1+2	□手法 1+2+3

高効率家電機器の導入　チェックシート

（回答必須）

1. 最重点家電・重点家電の省エネクラスをご確認ください。
該当する機器が無い場合は回答不要です。

(1) 冷蔵庫

□　クラス-1：1994 年以前製品
□　クラス 0：1995～2000 年製品
□　クラス 1：2001 年以降製品
□　クラス 2：2007 年以降の省エネ製品

製造年：　　_____年
年間消費電力：　_____kWh　（取扱説明書等に記載されています）

(2) テレビ

台数：_____台
各テレビの画面の大きさ：_____インチ，_____インチ，_____インチ

□　クラス-1：プラズマ・37 型・2004 年以前製品
□　クラス-1：プラズマ・37 型・2007 年の製品
□　クラス 0：ブラウン管・28 型・2000 年以前製品
□　クラス 0：液晶・37 型・2004 年以前製品
□　クラス 1：液晶・37 型・2007 年の製品
□　クラス 2：液晶・28 型・2000 年以前製品
□　クラス 3：液晶・28 型・2001 年以降製品

(3) 温水暖房便座

台数：_____台

□　クラス-1：貯湯タイプ
□　クラス 0：瞬間湯沸かしタイプ
□　クラス 1：瞬間湯沸かしタイプ（時間制御つき）

(4) 電気ポット

□　クラス 0：通常
□　クラス 1：魔法瓶タイプ

2. 家電機器のエネルギー消費率をご確認ください。

レベル評価 / クラス条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
	レベル-1	レベル 0	レベル 1	レベル 2
	1.4	1.0	0.8	0.6
冷蔵庫 テレビ 温水暖房便座 電気ポット	□-1+0+0+0	□0+0+0+0	□1+1+0+0	□2+3+1+1

記入例：冷蔵庫とテレビは 2010 年の製品で、暖房便座は瞬間湯沸かしタイプ（時間制御つき）で、魔法瓶を使用する場合：

レベル評価 / クラス条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
	レベル-1	レベル 0	レベル 1	レベル 2
	1.4	1.0	0.8	0.6
冷蔵庫 テレビ 温水暖房便座 電気ポット	□-1+0+0+0	□0+0+0+0	□1+1+0+0	■2+3+1+1

水と生ゴミの処理と効率的利用　チェックシート

（水と生ゴミの処理と効率的利用を採用した方のみお答えください。）

※「水と生ゴミの処理と効率的利用」について、1 次エネルギー消費量の削減効果を推計する方法がないため、エネルギー消費率の評価を行いません。

□　手法１　節水型機器の利用

（以下、採用するにチェックした方のみお答えください。）

大便器、給水・給湯水洗い金具、シャワーヘッド、洗濯機の４種類について、機器販売のおおよその時期をお答えください。

□　１９９０年代市販レベル
□　２０００年代市販レベル
□　２００４年代市販レベル

□　その他の手法

水と生ゴミの処理と効率的利用についてその他の工夫（雨水・排水再利用システム、雨水浸透桝等の利用、排水の高度処理技術の採用、生ゴミの効率的処理技術の採用など）がありましたら記入してください。（自由記述）